萩原幸一郎

Hagiwara Kouichirou

根掛かりのストレスがない難しくない。そしてめちゃ釣れる衝撃でした！

淀川をホームグラウンドにボンボンゲームを楽しむ萩原幸一郎さん。シーズンに入れば仕事帰りにちょこっと立ち寄り、バシバシッと良型を連発させる

底は荒いポイントが多い淀川だが、ボンボンなら根掛かりのストレスをほとんど感じない

Scene1 ボンボン誕生秘話

ルアー。大阪といえば道頓堀のあの看板にたこ焼き！ ということで、今回はグリコ前の広場からアツアツのたこ焼きをつまみながら、なぜ『根魚ボンボン・チヌスペシャル』はそんなに簡単にキビレやマチヌが釣れるのか？ その秘密をじっくり教えていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします！

武田「どうぞよろしくお願いします！ 大阪といえばこの丸いたこ焼き、いやこれからは、大阪といえばこの丸いボンボン！ そのぐらいの勢いで世間では大いに盛り上がっていますよ！」

——今日はそのボンボンについて、教えてもらいたいことがテンコ盛りです！ まずはこの『根魚ボンボン・チヌスペシャル』ですが、この不思議なルアーが誕生したところから教えていただきたいのですが……。

武田「キビレやチヌをルアーで釣るって、何かそそられませんか？ スズキや青ものにはない意外性っていうか、ルアーで釣れるって話は聞いていても、実際釣れたらびっくりする」

——そうですね、めっちゃかっこいい魚で、グレードが高いというか、とてもひかれる魚です！

武田「そんなターゲットですから、

捨て石のカケアガリでキビレがヒット。一気に抜き上げる

Scene2

ポイントはどこ？

食い気強いキビレやマチヌがエサを求めて深場から接岸 底石が粗い浅場をねらえ

ボンボンゲームのポイント

河口エリアなど汽水域はキビレ、マチヌが多い。底の捨て石やブレイクなどがヒットポイントになる。全般に水深1～3mの浅場が釣りやすい

——う～ん、エキスパートのみなさんにじっくり話を聞かせていただくと、うわさどおりボンボンのパワーはすごいですね！ 今すぐにでも投げに行きたくなりますが、ではその前にボンボンゲームを楽しむにはどんなところで楽しめばいいのでしょうか？ ポイントの選び方を教えてもらいたいのですが。

武田「基本的には河口エリアや運河筋など真水の流れ込むエリアで、水深は深くても3m程度までの浅場が釣りやすいですね。たとえば運河筋の石畳とかテトラ帯、河口の護岸などはそういったポイントに当てはまると思いますよ」

三宅「注意したいのは、通常のエサ釣りポイントよりもさらに奥というか、浅場がいいという点ですね。ウキ釣りなどでは釣りにならないような50cm程度の水深でも、キビレはいるんです。それをボンボンならきっちり釣りこなすことができますね」

——そんな浅場に？

武田「エサ釣りのおじさんには、よういわれました。〝兄ちゃん、そんなところにキビレはおらんで〟。でも、実際はそんな浅場で当たり前のようにヒットしてきます」

萩原「家の近所に海か川かわからないようなポイントがあれば、一度ボンボンを投げてみればいいと思いますよ。そんなところにキビレは多いですね」

——水深のあるポイントよりも浅場がいいんですか？

武田「ハイ。その理由は、まずあまり深すぎると底が探りにくいというのが1つ。そして浅場の敷石やテトラ帯、それに捨て石が〝ガタガタ〟しているようなポイントは、深場にくらべてカニや虫類などキビレやマチヌのエサがめっぽう多いことも大きな理由です。だから、普段は深場にいるキビレやマチヌも、エサを食うときは浅場に寄ってくる。

つまり、こうしたポイントはエサに対してすでにスイッチが入った食い気の強い魚が集まってくるというわけです。単に魚の絶対数だけをくらべれば、深場のほうが断然多いと思います。でも、エサに興味を示さない食い気のない魚が100尾いるよりも、食い気バンバンの魚が10尾いたほうが簡単に釣れるでしょ？」

——なるほど、キビレやチヌにとって居心地がいい深場は住みかで、カニなどが多い浅場はエサ場ということですね？

九鬼さん、萩原さんのホームグラウンドでも、やはり浅場がポイントになるんですか？

九鬼「和歌山県紀北エリアの代表的なポイントといえば、一番に和歌川や紀ノ川の河口があげられますが、やはり水深がなくて、底がややゴロゴロしているポイントで好釣果が上がっていますね。キビレやマチヌの群れは結構移動が頻繁です。だから最初に入ったポイントがダメなら、粘らずにランガンで好ポイントを探す、といった

潮位が引けば干上がってしまうような浅いゴロタ場が好ポイントとなる

萩原さんが愛用するロッドはロコモロ『ジャストエース"KuRo"LM-762L』。ルアー1BANのオリジナル仕様で、淀川のボンボンゲームにはベストマッチ

Scene2 ポイントはどこ？

底取りやすくエサ多い浅場にスイッチが入ったキビレが接岸

淀川河口部の石畳。キビレの魚影は抜群に多い

大阪市梅田の『ルアー1BAN』でボンボンゲームの楽しみ方をわかりやすく解説する萩原さん

ていねいに底を探っても、根掛かりのトラブルに悩むことは少ないボンボンゲーム。それが釣りやすさにつながり、好釣果を呼び込む

攻め方がいいと思います。サオがだせそうなポイントは、まず投げてみる。キビレやマチヌがいれば、すぐにボンボンが寄せてくれるように思います」

萩原「僕がよく通っている淀川は、少し沖にブレイクがあるといったところよりも、ポイント全体にシャローが広がっているところが多いですね。底は比較的粗いところも多いんですが、ボンボンならそれほど苦にはなりません。遠投で広範囲を探るのが好釣果のカギだと思います。

それに、ここではシーズナルパターン（季節ごとによる変化）を読むことも大切です。ポイントは河口部から毛馬の水門あたり（大阪市都島区）までとかなり広いのですが、それを河口部、中流部、上流部と分けて考えて、季節や水温の変化によって今はどこに群れが集まりやすいかを判断する。基本的には春や秋は河口部、夏場は中～上流部がねらいめになることが多いですね。

ただ、それほどシビアに群れを追いかけなくても、みなさん自分の得意なポイントに通ってバンバン釣っておられますけど」

——そうですか。深場よりも浅場がよいというのは、この釣り独特のパターンなのですね。水深のある潮通しがよいポイントを探すとなれば、ある程度かぎられたピンスポットになりますが、今教えてもらったような浅場でいいのなら、ホントにどこでも身近なポイントで楽しめそうですね。

武田「身近すぎて……よく〝どんなポイントで釣れるのか？〟と聞かれたときに、つい〝どこでも釣れますよ！〟っていってしまうんです（笑）」

Scene3

タックルAtoZ

サオは食い込みやすいソフトティップがおすすめ！ まずはメバル用ロッドで

——では次にタックルについて、ボンボンゲームには何を用意していけばいいでしょうか？ まずはやはりボンボンですが……。

三宅「まず大切なのはウェイトですね。ボンボンには3・5～14gまでがそろっていますけど、陸っぱりでシャローポイントを攻めるんだったら3・5～7gをよく使います。これを水深や潮の流れ、魚の活性に合わせて使い分けることが、より数多くのヒットにつながります」

——カラーバリエーションも豊富ですよね

武田「キビレやマチヌのエサといえばカニやイガイといった黒っぽいものが思い浮かぶでしょ？ だから、最初はそういったダークなカラーをメインに使っていたんです。でも、釣り込んでいくうちに真っ赤とか、エサの色とはかけ離れた派手な色のボンボンでもバンバン食ってくることがわかってきました。状況によってはそんな色のほうがダークな色よりはるかにアタッたりもして……」

三宅「僕も最初はマジョーラ系のダークな色しかアカンて思っていましたね。ところが、あるときにお客様から〝ボンボンは赤がよく釣れるで！〟といわれて。正直、赤？ って驚きました。でも、ちょっとニゴリが入ったときに、たまたま真っ赤を使ってみたらバンバン食ってきて、これでカラーへのわだかまりが解けました。それからいろいろ手探りで試していくと、状況によってアタリが多い色と少ない色があるように感じますね」

——やはりカラーで反応が変わるんですね？

萩原「この色は釣れない、とか、この色でなかったら釣れない、といったものはありませんが、その場の状況に応じてはっきりとアタリが多いと感じるカラーはありますね。でも、こんなときにこの色、といい切ることは難しいような……。さまざまな要因が複雑に絡み合ってヒットカラーが決まるように思うので、現場には明or暗、地味or派手と変化をつけてある程度のカラーを用意していき、その日のヒットカラーを探し当てるのがいいと思います」

ボンボンはサイズやカラーを状況に合わせて使い分けたい。写真右から、7g、5g、3.5g

FISHING